

2019年(令和元年)12月6日(金曜日)



親に心を向ける

私たちは母親のおなかの中にいるときから、親と深く関わりを持ちます。生まれてから今日に至るまで、最も大きな影響を受けるのは親という存在でしょう。しかし「親の心子知らず」というように、子供にとって、親はあまりにも近い存在であるため、かえってその深い愛情に気づかないこともあります。

それでも困難に遭遇した際、両親の温かい笑顔が思い出され、困難を乗り越える勇気を得たという

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

人は少なくありません。育ててくれた親の愛情に気づき、親の心につながるうとする中で、私たちの生きる力は強く育まれていくのではないのでしょうか。
たとえ親と離れて暮らしていても、また、親がすでに亡くなっていたとしても、親に心を向け、自分がどのように生きることが親に安心と喜びを与えるのかを考えることが、私たちの精神を安定させ、人生をより豊かなものにしていきます。

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2019年(令和元年)12月13日(金曜日)



日本人の「祈り」

ラフカディオ・ハーン(小泉八雲(こいずみやくも)一八五〇〜一九〇四)は、明治のころの日本に関して「朝になると、パチパチと音がする。太陽に向かって人々が拍手(かしわで)を打ち、恭(うやうや)しく頭を下げて拜(ひら)んでいるのである。(中略)たぶん二万、いや二万年前から、皆このようにして『お天道(てんとう)様』を礼拝したのである」と記しました(『神国日本』東洋文庫/意訳)。

どんなに文明が発達しても、人

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

間は自分の手で太陽、大地、水、空気などをつくり出すことはできません。その意味で、私たちは偉大な大自然の恵みの中で生かされているといえます。古来、日本人はそうした恵みに対して、感謝の気持ちを込めて敬虔(けいけん)な祈りをささげてきたのです。「祈り」とは、生かされている喜びを実感し、大自然をはじめ、祖先や先人、恩人たちのおかげを知ったときに生まれるものといえるのではないのでしょうか。

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail:book@moralogy.jp TEL:04-7173-3155

2019年(令和元年)12月20日(金曜日)



優しさとは、常に相手に心を向けること

私たちの心づかいは、表情や態度、具体的な言葉や行動など、さまざまな形で表れますから、ひと口に「優しさ」といっても、そこにはいくつもの表現があります。例えば、明るい表情で接する、励ましの言葉をかける、相手の話に耳を傾けるなど。こうした直接的な言動に、「相手の心に寄り添いながら、粘り強く見守り、幸せを祈る」といった優しさも加味されたなら、その優しさは、より深く、大きなもの

道徳で人と社会を幸せに

「優」という字は、人偏に「憂」というつくりでできています。「憂」とは、相手のことが気にかかる、心配だ、なんとかならないかと、相手のことに心を痛めることです。そうした心づかいや言動の積み重ねが、一つの大きな「優しさ」を形づくり、人を温かく包み込んでいくのではないのでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155

2019年(令和元年)12月27日(金曜日)



物には「いのち」がある

宮大工の西岡常一氏(にしおか つねかず 一九〇八〜一九九五)は、木には二つの「いのち」があると言っています。一つは、木のいのちとしての樹齢。もう一つは、木が用材として生かされてからの耐用年数のことだそうです。西岡氏は言います。

「木は大自然が生み育てた命ですな。木は物やありません。生きものです。人間もまた生きものですな。木も人も自然の分身ですがな。この物いわぬ木とよいう話し合って、命ある建物に変

道徳で人と社会を幸せに

えてやるのが大工の仕事ですわ」「木のいのち木のことろ(木)草思社」この言葉からは、自然に対する謙虚さ、さらに「いのち」を活(い)かしていく自分の仕事に対する責任感と誇りを感じます。日常生活の中にある「物」は、すべて自然から与えられたものです。私たちには、自然の恵みに感謝して、物の「いのち」を大切に使う責任があるのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155